

■設計：建築設計事務所(文哲俊)

■ 概要

このプロジェクトの概念は、外観の造形性や仕上げ材料を通じた建築の審美の完成より、場所に対する解析を通じて得られる周りとの関係設定にある。

都市の端、自然と都市の境界に置かれ、自然と接触している計画敷地は、果樹園と隣接しており、周辺の寄生火山(済州ではオルムと呼ばれる)に向かって視覚的、空間的範囲を広げようとした。

計画敷地は、五感を通じて自然を感じると共にそれで都市との疎通が可能であり、都市と自然を対立的関係に認識する場所でもある。

“自然を最大限に感じたい”との建築主の素朴な望みのように、敷地に建築物を置いて“疎通”的コードを考えた。つまり、一定の領域を空き空間として置き、自然との接触を極大化しようとしたものである。そのように空き空間の領域はいわゆる“中庭”という内部と外部の中間領域を作り出してそれによってスムーズに“空間割り”という居住の機能的問題も解決できるようになった。